

(総則)

第1条 発注者と受注者は、この契約書に基づき、別紙仕様書等に従い、法令を遵守し、この契約を履行しなければならない。

2 受注者は、頭書記載の物品の修繕を履行期間中に完了し、当該物品を発注者に引渡し、発注者はその契約金を支払う。

(権利義務の譲渡等の禁止)

第2条 受注者は、この契約によって生じた権利又は義務を第三者に譲渡し、承継させ、若しくは担保に供し、又は修繕を一括して請け負わせることができない。ただし、あらかじめ書面により発注者の承認を受けた場合並びに信用保証協会及び中小企業信用保険法施行令(昭和25年政令第350号)第1条の3に規定する金融機関に対して売掛債権を譲渡する場合は、この限りでない。

(修繕のための引取り)

第3条 受注者は、この契約に基づく物品の修繕のため、物品の全部又は一部を受注者の工場、事務所等へ引き取るときは、発注者の立会いの上、当該物品の検査の後、引き取らなければならない。

2 受注者は、前項の規定により発注者から物品を引き取ったときは、当該物品の修繕の履行期間中の預かりを証する書面を発注者に提出しなければならない。

(分解検査)

第4条 受注者は、修繕のため物品を分解するときは、発注者の立会いを求めて、これを行う。ただし、発注者が必要でないと認めるときは、この限りでない。

2 受注者は、分解の結果、修繕内容が仕様書等と合致しないときは、発注者に通知し、その指示に従う。ただし、契約金額又は履行期間その他契約条件を変更する必要があるときは、第12条の規定を準用する。

(材料の品質、検査等)

第5条 修繕に使用する材料につき、仕様書等にその品質が明示されていないものは、中等以上のもので、発注者が認めるものとする。

2 受注者は、仕様書等に発注者の検査を受けて使用すべきものと明示された修繕材料については、当該検査に合格したものを使用しなければならない。

(仕様書等に不適合な場合の措置等)

第6条 受注者は、修繕の履行内容が仕様書等に適合しない場合において、発注者がその改造を請求したときは、これに従わなければならない。これにより契約金額の変更又は履行期間の延長が必要な場合は、第12条の規定を準用する。

2 発注者は、受注者が前条第2項の規定に違反した場合又は修繕の履行が仕様書等に適合しないと認められる相当の理由がある場合において、必要があると認められるときは、修繕の履行部分を分解して検査することができる。この場合において、当該検査及び復旧に要する費用は、受注者の負担とする。

(成果物引渡し前の物品に対する損害の負担)

第7条 修繕した物品の発注者への引渡し前に、当該物品、修繕材料について生じた損害は、受注者の負担とする。ただし、その損害のうち発注者の責に帰すべき理由により生じたものについては、発注者がこれを負担する。

2 受注者は、この契約に基づく債務の履行につき、第三者に損害を及ぼしたときは、その損害の責めを負う。

(納入の届出)

第8条 受注者は、物品の修繕を完了し、頭書の履行場所に納入したときは、直ちにその旨を発注者に届け出なければならない。

(物品の検査)

第9条 発注者は、前条の届出を受けたときは、その日から起算して10日以内に物品の検査を行い、合格したものについては、その引渡しを受ける。

2 受注者は、前項の検査の結果、発注者が納入された物品の全部又は一部がこの契約に違反し、この契約の目的を達成することができないと認めるときは、遅滞なく引き取り速やかに修補又は再修繕等の必要な処置をとらなければならない。この場合においては前条及び前項の規定を準用する。

3 物品の検査に必要な費用及び検査のために変質し、消耗し、又はき損したときの損失は、受注者の負担とする。

(契約不適合責任)

第10条 発注者は、受注者から物品の引渡しを受けた後、当該物品が種類、品質又は数量に関して契約の内容に適合しない(以下、「契約不適合」という。)場合、発注者は受注者に対し、当該物品の修補、代替物の引渡し又は不足分の引渡しによる履行の追完を請求することができる。

2 前項の場合において、発注者は、同項の規定する履行の追完の請求(以下、「追完請求」という。)に代え、又は追完請求とともに、損害賠償の請求及び契約の解除をすることができる。

3 第1項の規定する場合において、発注者が相当の期間を定めて履行の追完を催告したにもかかわらず、その期間内に履行の追完がないときは、発注者は、その不適合の程度に応じて契約金額の減額を請求することができる。ただし、履行期間内の履行の追完が不能である、又は受注者が履行の追完を拒絶する意思を明確にしている、その他発注者が催告しても履行期間内の履行の追完を受ける見込みがないことが明らかであるときは、発注者は、何らの催告なくして契約金額の減額請求をすることができる。

4 契約不適合が発注者の責めに帰すべき事由によるものであるときは、発注者は、受注者に対して、前3項の請求をすることができない。

5 受注者が種類又は品質に関して契約の内容に適合しない当該物品を発注者に引き渡した場合において、その不適合を知った日から1年以内にその旨を受注者に通知しないときは、発注者は、その不適合を理由として、履行の追完の請求、契約金額の減額請求、損害賠償の請求及び契約の解除をすることができない。ただし、受注者が引き渡しの際にその不適合を知り、又は重大な過失によって知らなかったときは、この限りでない。

(契約金の支払)

第11条 受注者は、物品を引渡しした後、契約金を発注者に請求し、発注者は、請求書を受領したときは、その日から起算して30日以内に契約金を支払わなければならない。

2 発注者は、自己の責に帰すべき事由により契約金の支払いを遅延した場合、受注者に対し、前項の期間満了の日の翌日から支払いの日までの日数に応じ政府契約の支払遅延防止等に関する法律(昭和24年法律第256号。以下「支払遅延防止法」という。)第8条第1項に規定する率で計算した額の遅延利息を加算して支払う。

(契約の変更)

第12条 発注者は、受注者が物品の修繕を完了するまでは仕様書等を変更することができる。

2 前項の場合において、契約金額、履行期間その他この契約に定める条件を変更する必要があるときは、発注者と受注者とが協議の上、定める。

3 発注者は、第1項に定めるもののほか、履行期間、履行場所その他この契約に定める条件を、受注者と協議の上、変更することができる。

4 発注者は、前2項の規定によりこの契約を変更したことによって受注者に損害を及ぼしたときは、その損害を賠償しなければならない。この場合における賠償額は、発注者と受注者とが協議の上、定める。

(履行期間の延長)

第13条 受注者は、自己の責に帰することができない事由により履行期間中に物品を納入できないことが明らかになったときは、発注者に対して遅滞なくその理由を付して、書面により履行期

間の延長を願い出ることができる。この場合において、受注者は、その願出を履行期間中に行わなければならない。

(部分引渡し)

第14条 発注者が、別紙仕様書等で、履行期間中にその物品の一部について納入することを指定した場合において、受注者が、当該指定部分の物品を納入したときは、第8条から第11条までの規定中「物品」を「物品の一部」と読み替えて、これらの規定を準用する。

2 前項に規定する場合のほか、物品の納入について、その一部が可能となり、当該部分において、この契約の目的を達成することができるものと認められる場合は、発注者は、当該部分について、受注者の承諾を得て納入を求めることができる。この場合において、第8条から第11条までの規定中「物品」を「物品の一部」と読み替えて、これらの規定を準用する。

(履行遅滞における損害金)

第15条 受注者が、履行期間中に物品の引渡しを完了しない場合においては、発注者は、損害金の支払いを受注者に請求することができる。ただし、受注者の責めに帰することができない事由によるものであるときは、この限りでない。

2 前項の損害金の額は、契約金額につき、履行期間の満了の日の翌日から納入の日までの日数に応じ、支払遅延防止法第8条第1項に規定する遅延利息の率で計算した額とする。

3 前項の場合において、前条の規定による部分引渡しを受けたときは、契約金額から当該部分に相当する金額を控除して損害金の額を算出する。

(機密の保持等)

第16条 受注者は、この契約により知り得た発注者の業務上の機密を外部に漏らし、又は他の目的に利用してはならない。受注者がこの契約の履行を完了した(第18条から第20条までの規定により、発注者又は受注者が、この契約を解除した場合を含む。)後も同様とする。

**2 受注者は、発注者の情報資産を取り扱う場合には、富山市情報セキュリティポリシーその他関連法令を遵守しなければならない。**

(談合その他不正行為に対する賠償額の予定)

第17条 受注者は、この契約に関して、富山市契約規則(平成17年富山市規則第37号。以下「規則」という。)第37条第1項各号のいずれかに該当するときは、賠償金として、この契約による契約金額の100分の20に相当する額を支払わなければならない。受注者がこの契約の履行を完了した後も同様とする。ただし、規則第37条第1項第1号又は第2号に該当するときであって、排除措置命令又は納付命令の対象となる行為が、独占禁止法第2条第9項に基づく不公正な取引方法(昭和57年6月18日公正取引委員会告示第15号)第6項に規定する不当廉売の場合又はその他発注者が特に認める場合は、この限りでない。

2 前項の規定は、発注者に生じた実際の損害額が前項に規定する賠償金の額を超える場合においては、発注者がその超過分につき賠償を請求することを妨げるものではない。

(発注者の解除権)

第18条 発注者は、受注者が次の各号のいずれかに該当するときは、何らの催告を要せず直ちにこの契約を解除することができる。この場合において、受注者は、解除により生じた損害の賠償を請求することができない。

(1) 履行期間中に物品の引渡しを終えないとき又は引渡しを終える見込みが明らかでないとき認められるとき。

(2) 契約不適合があったとき。

(3) 規則第37条第1項各号のいずれかに該当したとき、受注者又は受注者の役員若しくは受注者の使用人が刑法第198条による刑が確定したとき又はこの契約の締結若しくは履行につき不正な行為があったとき。

(4) 第20条第1項の規定によらないでこの契約の解除を申し出たとき。

(5) この契約の履行にあたり、法令の規定等による必要な許可又は認可等を失ったとき。

(6) 前各号に掲げるもののほか、この契約に違反し、この契約の目的を達成することができないと認められるとき。

(7) 受注者が次のいずれかに該当するとき。

イ 役員等（受注者が個人である場合にはその者を、受注者が法人である場合にはその役員又はその支店若しくは常時契約を締結する事務所の代表者をいう。以下この号において同じ。）が暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成3年法律第77号。以下「暴力団対策法」という。）第2条第6号に規定する暴力団員（以下「暴力団員」という。）であると認められるとき。

ロ 暴力団（暴力団対策法第2条第2号に規定する暴力団をいう。以下同じ。）又は暴力団員が経営に実質的に関与していると認められるとき。

ハ 役員等が自己、自社若しくは第三者の不正の利益を図る目的又は第三者に損害を加える目的をもって、暴力団又は暴力団員を利用した等と認められるとき。

ニ 役員等が、暴力団又は暴力団員に対して資金等を供給し、又は便宜を供与する等直接的あるいは積極的に暴力団の維持、運営に協力し、若しくは関与していると認められるとき。

ホ 役員等が暴力団又は暴力団員と社会的に非難されるべき関係を有していると認められるとき。

（契約が解除された場合等の違約金）

第18条の2 発注者は、次の各号のいずれかに該当するときは、契約金額の100分の10に相当する額を違約金として徴収する。ただし、受注者の責めに帰することができない事由によるものであるときは、この限りでない。

(1) 前条の規定によりこの契約を解除したとき。

(2) 受注者がその債務の履行を拒否し、又は、受注者の債務の履行が不能となったとき。

2 次の各号に掲げる者がこの契約を解除した場合は、前項第2号に該当する場合とみなす。

(1) 受注者について破産手続開始の決定があった場合において、破産法（平成16年法律第75号）の規定により選任された破産管財人

(2) 受注者について更生手続開始の決定があった場合において、会社更生法（平成14年法律第154号）の規定により選任された管財人

(3) 受注者について再生手続開始の決定があった場合において、民事再生法（平成11年法律第225号）の規定により選任された再生債務者等

3 第1項の場合において、既済部分がこの契約の目的の一部を達せられると発注者が認めるときは、未済部分に対する金額とすることができる。

第19条 発注者は、物品の引渡し完了するまでの間は、前2条の規定によるほか、必要があるときは、この契約を解除することができる。

2 発注者は、前項の規定によりこの契約を解除したことによって受注者に損害を及ぼしたときは、その損害を賠償しなければならない。この場合における賠償額は、発注者と受注者とが協議の上、定める。

（受注者の解除権）

第20条 受注者は、発注者が次の各号のいずれかに該当するときは、この契約を解除することができる。

(1) 第12条に規定する契約の変更により、契約金額が3分の2以上減少したとき

(2) 発注者がこの契約に違反し、その違反によってこの物品の修繕が不可能となったとき

2 受注者は、前項の規定によりこの契約を解除した場合において、損害があるときは、その損害の賠償を発注者に請求することができる。この場合における賠償額は、発注者と受注者とが協議の上、定める。

（解除に伴う措置）

第21条 第18条から前条までの規定により、この契約が解除された場合において、修繕のため

受注者が分解し、又は引き取った物品がある場合には、受注者は、発注者が指定する期限までに受注者の費用をもって組立て、取付け等の必要な処置をとり、発注者の指定する場所において発注者に返還しなければならない

(遅延利息の徴収)

第22条 受注者がこの契約に基づく損害金、賠償金又は違約金(以下「損害金等」という。)を発注者が指定する期限までに支払わないときは、発注者は、損害金等の額に当該期限を経過した日から支払いの日までの間の日数に応じ支払遅延防止法第8条第1項に規定する率で計算した額を遅延利息として徴収する。

(損害金等の徴収方法)

第23条 発注者の支払うべき契約金額が損害金等(前条に規定する遅延利息を徴収する場合は、その額を加算したもの。以下この条において同じ。)の額以上である場合は、損害金等の額を相殺して支払うものとし、受注者の支払うべき損害金等の額が契約金額を超える場合は、契約金を損害金等に充当し、なお不足する額を追徴する。

(補則)

第24条 この契約に定めのない事項については、規則の定めるところによるほか、必要に応じて発注者と受注者とが協議の上、定める。